

## お茶で環境問題解決を

メンバー：

洞蒼太・川北大貴・立花悠人・辻雄輝・羽根琉碧・松田文葉・丸山颯斗・宮田真斗・村井恒紀・山本真穂・田中月渚

## 1. 度会カフェリョクプロジェクトについて

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1. 和紅茶プロジェクト      | 2. お茶Bottleプロジェクト |
| 3. 陶器Bottleプロジェクト | 4. お茶の木プロジェクト     |

本活動は、若者を中心にお茶への関心を高めるとともに、地域産業への理解深化や環境負荷の軽減を目指して実施しています。成28年に開始した本活動は、今年度で 11年目を迎え、現在では上記の4つのプロジェクトを軸に多角的な活動を展開しています。

## 1. 宇治山田の和紅茶プロジェクト

伊勢茶を使った和紅茶「宇治山田の和紅茶」の普及を目的に、月1回の試飲販売会を実施。来場者に風味の特徴や魅力を直接伝え、地域産品への関心と和紅茶の新たな楽しみ方を広げる取り組みを行いました。



## 2. お茶Bottleプロジェクト

若者にお茶文化を広めるため、お茶パックとリユースボトルを販売。茶葉の違いや淹れ方の魅力を伝えつつ、マイボトル利用によるプラスチック削減を促進し、日常的にお茶を楽しむ習慣づくりを目指しました。

## 3. お茶の木プロジェクト

大学生・高校生が実際にお茶の木を育てる体験を通じ、地域産業への理解を深める取り組み。栽培工程を学ぶことでお茶文化への関心を高め、学校間連携を強化しつつ、次世代の担い手育成にもつなげました。



## 4. 陶器Bottleプロジェクト

地元企業の三重NARUMI様と協働し、環境に配慮した陶器ボトルを開発。伝統技術を活かした質感や温もりを生かし、お茶時間を豊かにする製品づくりを推進。地域産業の魅力再発見と持続可能性向上に寄与しました。

## 三重NARUMI様での工場見学での様子

実際の開発では、デザイン性だけでなく、使いやすさや安全性、製造の視点が重要であることを知りました。今回の経験を通して、実社会とつながるものづくりの難しさと面白さを実感しました。今回の経験を通して、実社会とつながるものづくりの難しさと面白さを実感しました。

## 今後について

現在、本活動は4つプロジェクトへと発展しています。「宇治山田の和紅茶プロジェクト」と「お茶Bottleプロジェクト」は先輩方の試行錯誤により基盤が築かれたものである一方、「お茶の木プロジェクト」と「陶器Bottleプロジェクト」は現メンバーが中心となってアイデアを磨き上げています。

今後「和紅茶プロジェクト」では引き続き伊勢茶の魅力発信に努め、「お茶Bottleプロジェクト」と「陶器Bottleプロジェクト」は統合しつつ、デザイン性や使いやすさの向上を目指して改良を進めていきます。また「お茶の木プロジェクト」では、お茶の木を育てる取り組みを着実に進めるとともに、地域における日本茶の普及活動も継続して取り組んでいきます。